

① はつりコンクリート
Hammered Finish Concrete

ロビーの壁面やアーチ状の天井は、その表面がざらざらしています。これはコンクリートの表面を特殊な工具でたたいて削る「はつり加工」によるものです。無機質な近代建築に手のぬくもりを与えています。



② 家具
Furniture

ロビーや会議室等の家具類は、すべて前川國男の監修を受けた、天童木工製の特注品。機能や配置場所に合わせて数多くの種類の椅子や机が制作されました。リニューアルではその大半を修理、再利用しています。



③ レストラン
Restaurant

設計に際して最も眺めよいこの場所が優先的にレストランに割り当てられました。大濠公園を一望できる特等席。リニューアルで新しくなったアプローチと合わせて、ここからの風景も新しくなりました。これも芸術作品？



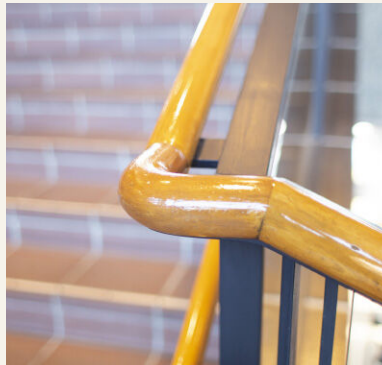
④ かまぼこ天井
Vaulted Ceiling

モダニズム建築の基調は縦横の直線。しかし前川設計の美術館にはアーチ状のひさしがついており、どこか日本的。そしてこれが内部の天井とつながり、建築に独特のリズムを与えています。



⑤ 打ち込みタイル
Mayekawa's Original Tiled Panel System

磁器質タイルで覆われた外観は、前川建築の外見上の特徴。前川が編み出した「打ち込みタイル」工法により取り付けられ、そのタイルは愛知県で焼かれた特注品。釉薬の反射する複雑な光はどれ1つとっても同じものではありません。



⑥ なめらかな手すり
The Smooth Handrails

木製ブロックの削りだして作られた手すり。角が丸くなっているのは、着物の袖が引っかからないように、という配慮といわれています。天井のアーチに呼応して、意外な場所で「曲線」が効果を出しています。



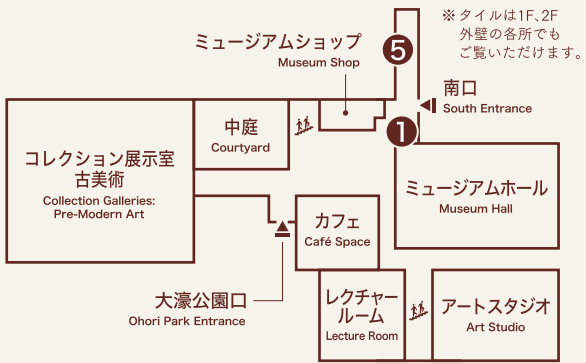
⑦ 照明
Lighting Fixtures

間接光を多用した館内照明は、はつりの天井に反射して柔らかい光を演出しています。今回のリニューアルでは照明器具はそのままにしてLED化。以前より明るく快適な空間となりました。

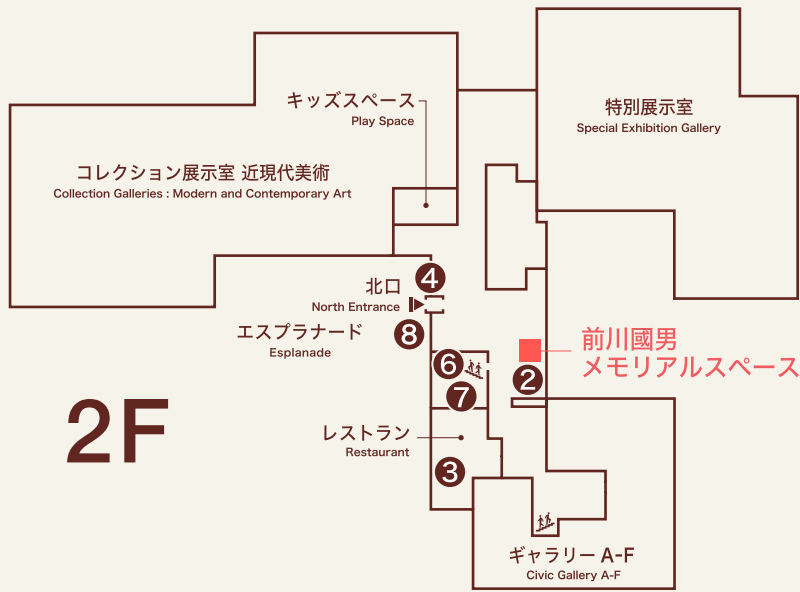
建築みどころガイドマップ

前川國男設計による当館建築のみどころを厳選しました。
このマップを片手に、その魅力をお楽しみください。

1F



2F



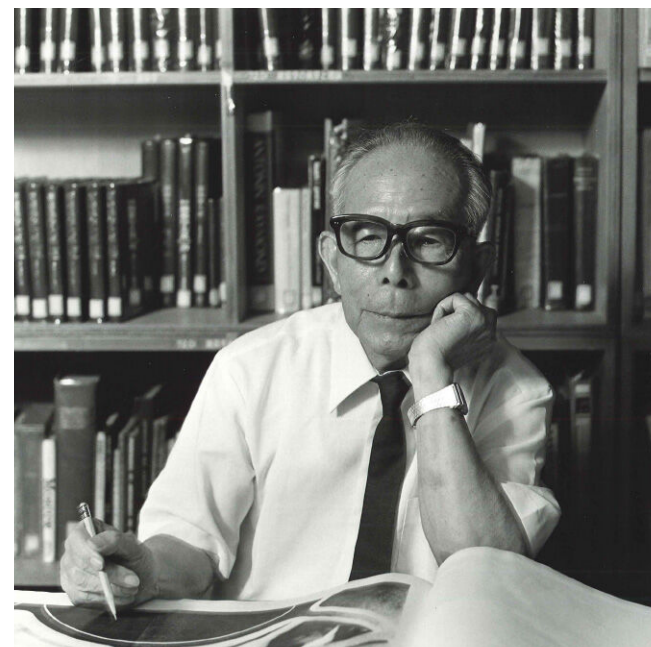
⑧ エスプラナード
Esplanade

「エスプラナード」とはスペイン語で「広場」の意味。ゆるやかな階段で1階から2階へ、そして館内へ来館者を導く役割を果たしますが、同時に来館者のこれからの「芸術体験」にむけて心を準備する場所でもあります。

前川國男
MAYEKAWA KUNIO
&
福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館の建物を設計したのは、建築家の前川國男（1905～1986）です。東京帝国大学建築科卒業と同時に渡仏。世界的建築家のル・コルビュジェに西欧近代建築を学びました。帰国後は、確かな技術に基づいた「近代建築」を日本の風土に根付かせようと努力を重ね、やがて日本を代表する建築家と目されるまでになりました。岡山県庁舎（1957年）や東京文化会館（1961年）など多くの公共建築のほか、1960年代後半から晩年にかけて国内各地で公立美術館・博物館の設計を手がけており、当館もその1つに数えられます。

1979年竣工の当館建築の外見上の特徴は、赤茶色の磁器質タイルによる外壁と、広々としたエスプラナードやロビーといったゆとりのある空間です。アーチ状の天井やはつり壁面、照明器具にも工夫が凝らされています。この度のリニューアルでは、見どころの多い当館建築の意匠を可能な限り継承しました。また、来館者がくつろぐロビーの椅子や、館長室や応接室、会議室の家具も建築に合わせて製作されており、前川自身がその設計に関与しています。当館の特徴を構成する重要な要素として見逃せません。そうした家具の多くも、リニューアルに合わせて修理し、再利用しています。当館コレクションと同様に、建築意匠もごゆっくりご鑑賞ください。



撮影者：廣田治雄 写真提供：前川建築設計事務所（1983年撮影）

The building of the Fukuoka Art Museum was designed by a Japanese architect, Mayekawa Kunio (1905-1986). He went to France right after he graduated from the Department of Architecture, Tokyo Imperial University (Current the University of Tokyo) to study western modern architecture under Le Corbusier, a world famous architect. After he came back from France, he put so much efforts to take root “Modern Architecture” on the basis of certain techniques in Japanese cultural climate. He soon became a representative figure of Japanese architects and designed many public buildings such as Okayama Prefectural Government Building (1957) and Tokyo Bunka Kaikan (1961). In the 60s and his later years, he designed further many public museums as well all across the country. Our museum is counted as one of them. When our museum opened in 1979, it appealed its characteristic elements such as the exterior wall covered by porcelain tiles in reddish brown color and the comforting spaces like the large square called “Esplanade” and relaxing lobby areas. Other ingenious devices were also found in the vaulted ceiling, the chipped walls and the lighting fixtures. We succeeded to such characteristic design of the architecture in this renewal project as much as possible. The lobby chairs for visitors and the furniture in the director’s office, the reception rooms and the conference room were designed to be matched to the architectural atmosphere. His own design essence was recognized in those pieces of furniture and it gave an important role to the elements comprising the characteristics of our museum. Many of those were restored and being reused in this renewal project. We hope you appreciate the architectural design of the Fukuoka Art Museum as well as our art collection.

